

私は一般開業医で初期研修を行い、歯科医師 3 年目に中央市民病院の専攻医となりました。

実はこれまで口腔外科を熱心に学んできた経験はなく、社会人として在宅医療や福祉に携わっていた経験から、私の興味は医科歯科連携や地域医療、摂食嚥下障害など、中央市民病院の口腔外科メインの診療内容からは程遠いものでした。

そんな私が中央市民病院の歯科口腔外科を希望した理由は、急性期に適切な歯科医療が提供されることで、それ以降の ADL が大きく変わるのではないかという疑問からでした。

急性期病院の歯科医療を学び、将来は急性期病院～地域医療へ包括的で切れ目のない歯科医療を提供したい、そんな思いでスタートした専攻医でしたが、先生がたは「今後の病院歯科に必要とされること」と柔軟な姿勢で私を迎え入れてくださいました。

現在、私は病棟、外来、小手術など指導医に学びながら、他科の指導医の元では NST（栄養サポートチーム）や摂食嚥下サポートチームに参加しています。

中央市民病院では多職種によるチーム医療が行われており、たとえ他科であろうとも充実した指導を受けることができることは最大の魅力であると実感しています。

もちろん、口腔外科を習得するには症例数も多く、内視鏡支援下手術など他施設では経験できない最新治療を間近で学ぶこともできます。

また、日本口腔外科学会指定研修機関であることから、3年の専攻医期間に口腔外科認定医の受験資格も得ることが可能です。

私も認定医取得を一つの目標としていますが、将来は急性期病院で歯科医師として必要な知識と技術を学び備えて、地域や在宅医療の現場に生かしていきたいと考えています。

中央市民病院のフィールドは歯科口腔外科に限らず多岐にわたります。

ぜひ、学びある 3 年間で当院専攻医として送ってください。